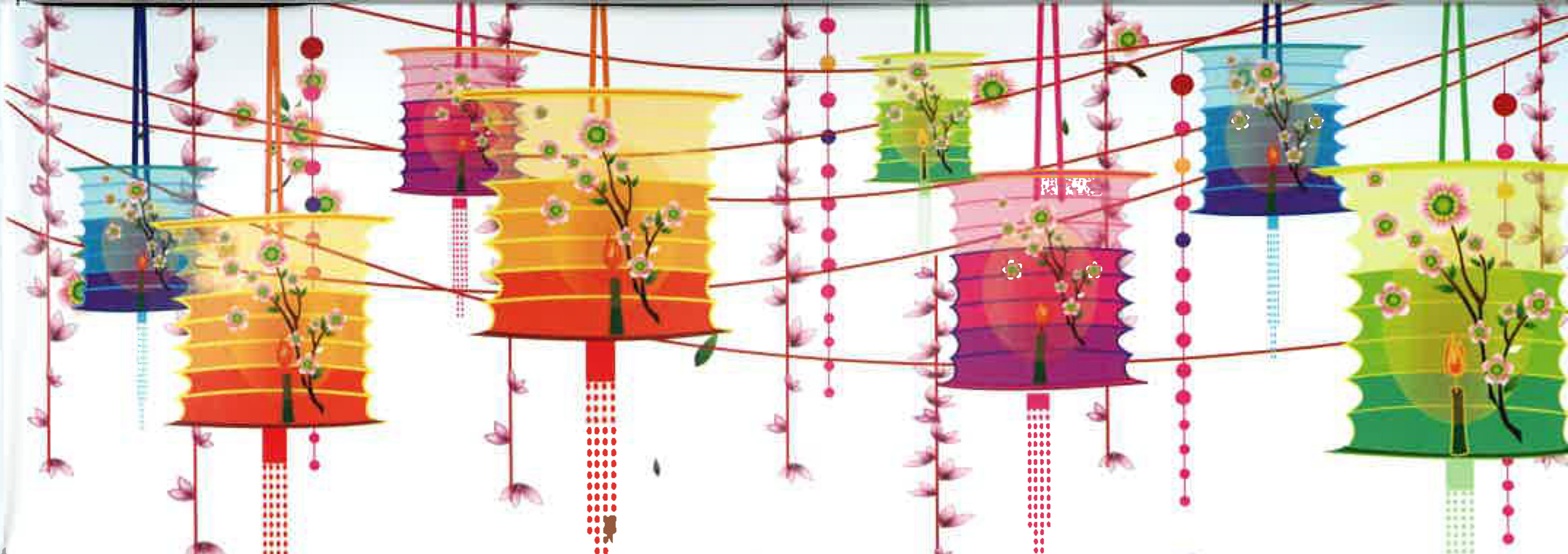




中国の観光祭り



目次

前書き	01
中国の概況	02
春節（陰暦お正月）	03
元宵節	04
清明節	04
端午節	05
中秋節	06
1月 新年を迎える、洛陽の白馬寺の鐘	07
金陵灯祭	08
ハルビンの氷と雪の祭り	09
2月 貴州苗族草笙会	10
昆明金殿の縁日	11
蓬萊の漁灯元宵節祭り	12
上海城隍廟元宵節(縁日)	13
婺源元宵節竜灯会	14
成都提灯祭り	14
麗江三朶祭	15
3月 東京禹王大廟会	16
4月 洛陽ボタンの花見会	17
福建湄洲媽祖節	17
都江堰の放水祭	18
蘇州太湖梅花の花見会	19
紹興蘭亭筆会書法祭	20
麗江東巴会	21
潍坊市国際風祭	22
5月 シーサンバナナ水かけ祭り	23
蘇州軋神仙	24
大理三月街	25
6月 シャングリラ競馬祭り	26
7月 蘭州水車祭り	27
寧夏花児会	28
内蒙古草原ナダム祭り	29
青海民族競馬大会	30
西昌松明祭り	31
8月 凱里竜船祭り	32
トルファン葡萄祭	33
ラサ雪頓祭り	34
楚雄彝族松明祭り	35
9月 蘇州虎丘廟会	36
泰山国際登山祭り	37
銭塘江観潮祭り	38
上海観光祭	39
10月 瀏陽の花火大会	40
甘肅シルクロード祭	41
開封菊祭り	42
11月 九寨溝羌年会	43
12月 広州市	44
蘇州寒山寺除夜の鐘	表紙3

地域で検索

前書き	01
中国の概況	02
春節（陰暦お正月）	03
元宵節	04
清明節	04
端午節	05
中秋節	06
河南省 新年を迎える、洛陽の白馬寺の鐘	07
東京禹王大廟会	16
洛陽ボタンの花見会	17
開封菊祭り	42
江蘇省 金陵灯祭	08
蘇州太湖梅花の花見会	19
蘇州軋神仙	24
蘇州虎丘廟会	36
蘇州寒山寺除夜の鐘	表紙3
黒竜江省 ハルビンの氷と雪の祭り	09
貴州省 貴州苗族草笙会	10
凱里竜船祭り	32
山東省 蓬萊の漁灯元宵節祭り	12
潍坊市国際風祭	22
泰山国際登山祭り	37
上海 上海城隍廟元宵節(縁日)	13
上海観光祭	39
江西省 婺源元宵節竜灯会	14
四川省 成都提灯祭り	14
都江堰の放水祭	18
西昌松明祭り	31
九寨溝羌年会	43
雲南省 昆明金殿の縁日	11
麗江三朶祭	15
麗江東巴会	21
シーサンバナナ水かけ祭り	23
大理三月街	25
シャングリラ競馬祭り	26
楚雄彝族松明祭り	35
福建省 福建湄洲媽祖節	17
浙江省 紹興蘭亭筆会書法祭	20
銭塘江観潮祭り	38
青海省 青海民族競馬大会	30
甘肅省 蘭州水車祭り	27
甘肅シルクロード祭	41
寧夏 寧夏花児会	28
湖南省 瀏陽の花火大会	40
内蒙古 内蒙古草原ナダム祭り	29
新疆 トルファン葡萄祭	33
チベット ラサ雪頓祭り	34
広東省 広州市	44

前書き

—『中国の祝祭日案内』をより充実ために—

中国の祭りは色彩豊かで、多種多様で、独特な趣向が凝らされ、熱烈な雰囲気には満ち、中華民族の優れた文化伝統、民族風情、儀礼、美しい自然資源を総合的に示している。また、中国の祭りの人気は古く、中華民族の祖先は長期にわたる生存競争と生活実践において、災害を克服し、勝利を祝い、希望を託すためのさまざまな特殊儀式や活動を催し、それらが後に今の各種の伝統的な祝祭日に発展してきた。経済・文化の発展と生活水準の向上に伴い、各地で文化、芸術、スポーツ、観光、経済貿易、科学技術を一体化した多種多様な現代的祝祭イベントが催され、これらは各地区間、国際間の交流、協力の架け橋として、また地域経済発展の潤滑剤となっている。

本書に選ばれた中国の祭りは、中国最も著名な祭り、各地方に大きな影響を与える祭りなど多数に上る。また、本書の特色は、中国国家観光局出版の『中国の祝祭日案内』載っていない内容を多く編入している。本書の紹介文も分かりやすくするため、簡潔で平易な表現を多く用いている。



最後に、本書は『中国の祝祭日案内』をより充実のために、この本を通じて今まで知らなかった中国の観光祭りの魅力を知り、中国の観光祭りに参加し、いい思い出を残していただきたいと願っている。どうぞお楽しみのほどを。

中国の概況

●地理位置

アジア東部、太平洋西岸に位置する中国は陸地を背に海に臨み、海陸を兼ね備える。中国は国土面積が広く、北は黒竜江省小漠河以北の黒竜江の中軸線から、南は南沙諸島中の曾母暗沙に至るまで、北から南への距離は約5500キロ。東は黒竜江と烏蘇里江（ウスリー川）の合流場所から、西は新疆帕米爾高原（パミール高原）に至るまで、東から西への距離は5200キロに及ぶ。

●国土面積

中国の陸地面積は約960万平方キロで、アジア陸地面積の約4分の1を占め、全世界陸地面積の約15分の1を占め、ロシア、カナダに次いで、世界で3番目の国である。

●気候

中国は大陸性モンスーン気候。中国の領域は南北の緯度の差が50度近くで、大部分の地域は温帯にあり、南方の一部の地域は熱帯と亜熱帯にあり、北部は寒帯に近い。各地区の気候は多様である。

黒竜江省の北部は冬が長く夏が短く、これに反して、海南島は夏が長く冬は短い。淮河流域は四季の違いがはっきりしている。雲貴高原南部は四季とも春のような天気。西北内陸地域では寒暑の変化が大きい。西南の青海・チベット高原は年を通し気温が低く、中国の高寒地域である。一部の砂漠地域は年中干ばつで雨は少ない。複雑な地形と多様な気候により、中国は豊富な自然景観と多彩な文化習慣が形成されている。

●人口

中国は約13億人で世界で人口の一番多い国である。人口総数は世界人口の約22%を占めている。中でも長江と銭塘江下流平原、珠江デルタ、四川盆地および黄淮平原の人口密度が最も高い。

●民族と宗教

中国は漢民族、蒙古族、回族、チベット族、ウイグル族、ミャオ族、イ族、チワン族、ブイ族、朝鮮族、満州族、トン族、ヤオ族など56の民族からなる統一的な多民族国家である。そのうち、漢民族の人口は全国総人口の92%を占め、他の55の民族は人口が少ないため、少数民族と呼ばれている。各民族の人口の多少を問わず、一律平等である。

中国は多宗教国家であり、仏教、道教、イスラム教、カトリック、プロテスタントは中国においていずれも信仰する人がある。中国では信仰の自由の宗教政策を実施している。すべての正常な宗教活動はいずれも憲法と法律の保護を受ける。



春節（陰暦お正月）

陰暦12月30日～陰暦1月3日

春節とは陰暦の正月である。中国で最も重要とされる祝祭日であり、新暦の正月に比べ盛大に祝賀されている。

陰暦の正月を祝う風習は文献資料で四千年以上前にさかのぼることが出来る。古代中国では年末年初に腊祭を行い先祖や衆神への祭祀が行われ、合わせて豊作を祈念することが一般的に行われていた。春節での習慣としては、起床後に年配者に対して長寿を祝う言葉を述べ、その後近隣住民や知人と春節を祝う言葉を述べ合うものがある（拜年）。

また正月料理も存在しており、広大な中国の中では地方により正月料理も大きく異なる。北方では餃子が知られており、南方では一年が甘くなるようにとの願いを込めて甘い餅（年糕）を食べる習慣がある。

また家庭では春節用の衣装を用意し、新年の華やかさを演出するだけでなく、新年に幸運をもたらす意味を持たせている。春節には中国各地において、必ず廟会（縁日）を催してお祝いする。南北問わずに爆竹を鳴らして花火を打ち上げることで、旧歳を辞め、新しい一年を迎える。





元宵節

開催日: 陰暦正月15日

陰暦正月十五日は、中国の重要な伝統的な祭日である。古書に、この一日を「上元」といい、その夜を「元夜」「元宵」と称したとある。元宵節の名はこんにちまでずっと用いられている。この春節後の最初の満月の夜に、家々では身内の者が団らんして、「元宵」と呼ばれる食べものを食べる。「元宵」はもち米の粉で皮をつくり、餡には甘いものも、塩辛いものもあり、とてもおいしい、円型に包んだもので、平和、幸福に過ごす意味をあらわしている。この種の「元宵」をまた「浮団子」「湯圓」とも呼ぶ。

中国の人々が元宵節の夜に灯籠を掛け、祠堂を祭り、子どもがちょうちんを提げ、まだ各地方「灯」をコンセプトに、多種多様な式典を開催されている(後文詳細な紹介があり)。こうしたすべては、「灯」と「丁」の発音が似ているために、吉祥の星に地上を照らしてもらい、子孫繁栄を願うことにつながっている。



清明節

開催日: 4月5日

清明(せいめい)は、二十四節気の一つ。中国における清明節は祖先の墓を参り、日本におけるお盆に当たる年中行事である。清明節になると人々は春を迎えて郊外を散策したり、若い男女がであいしたりする。また清明節前に摘んだ茶葉を「明前茶」、清明から穀雨までの茶葉を「雨前茶」、穀雨以後の茶葉を「雨後茶」という。中国で緑茶は清明節に近い時期に摘むほど、香りと甘みがあり、高級とされている。また、上海周辺では有名なあんこ入りの草団子、中国語で「青团」を食べる習慣がある。福建省では「潤餅」というクレープを食べる。広東省では「芥菜/カラシ」を食べる。

また、清明節の前日は寒食節で、中国人はこの寒食節と清明節の期間中、火を起こさないで、冷食をする風習がある。



端午節

開催日: 陰暦5月5日

陰暦では午の月は5月にあたり、この午の月の最初の午の日を節句として祝っていたものが、のちに5が重なるこの月の5日が端午の節句の日になったという。「端」は「始まり」という意味で、元々「端午」は月の始めの午の日のことだった。後に、「午」は「五」に通じることから毎月5日となり、その中でも数字が重なる5月5日を「端午の節句」と呼ぶようになったともいわれる。

この日を端午とする風習は、紀元前3世紀の中国、楚で始まったとされる。楚の国王の側近であった屈原は人望を集めた詩人、政治家であったが失脚し失意のうちに汨羅江に身を投げる事となる。それを知った楚の国民たちは大勢の船を漕いで、船から太鼓を叩くなど大きな音を立てて魚を追い払い、ちまきを川に投げ込み魚達が屈原の遺体を食べるのを制したのが始まりと言われている。

端午の節句中、全国各地行われる有名な行事といえば、「ドラゴンボートレース」競技で、中国語で「競龍舟」と言う。舵取り1名、太鼓手1名と、18~20人の漕手からなる細長いボートで、龍を模した飾りのある船で競われる。また、日本でも有名な「ちまき」、中国語で「粽子」を食べる習慣がある。





中秋節

開催日: 陰暦8月15日

陰暦8月15日の中秋節は古代の人々から月神に対する崇拝である。

その昔、9つの太陽をつぎつぎと射落とした弓の名手・羿(ゲイ)が狐をして家に戻ると、家には誰もいない。この日(8月15日)、ゲイの妻嫦娥は西王母(崑崙山に住むの伝説の女神)からもらった不死の薬を誤って飲み、月にあるという宮殿「広寒宮」へ舞い上がってしまった。それを聞いたゲイはとても悲しみ深く嫦娥を想った。毎年8月15日になると、庭にテーブルを置いて嫦娥が好きな果物を供えた。それを見た人々が、ゲイのようにお供物をならべて、嫦娥を中国人の月神と祭った。このことが毎年続き、世間にも伝わり、8月15日が中秋であったことから中秋節としてお祭りするようになった。

明・清時代の皇帝が白い衣服をまとい、歌舞音曲を楽しみながら、北京にある「月壇」で、嫦娥に白玉やシルクの織物をささげて、月神を祭る。

この日には全国で月を鑑賞しながら月餅を食べる習慣や贈り合う習慣がある。



新年を迎える、洛陽の白馬寺の鐘

開催日: 12月31日～1月1日 開催地: 河南省洛陽

毎年12月31日夜から1月1日明け方まで、洛陽の白馬寺では、鐘で新年を迎えるために大勢の観光客が集まる。白馬寺の108回の鐘の音に幸福と吉祥の新年を祈る。白馬寺は洛陽郊外15kmにあり、洛陽で最初に建立された仏教寺院であるといわれている。後漢明帝の永平11年(68年)に天竺から、仏典を白馬に積んで来た2人の僧侶を開祖とするといわれている。





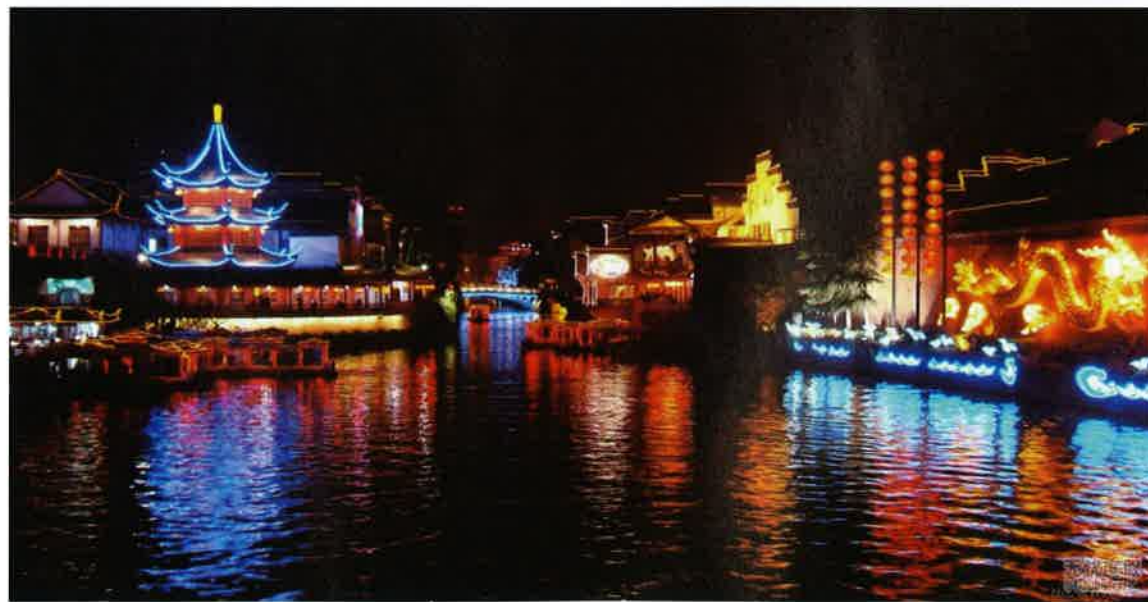
金陵提灯祭

開催日: 1月1日～2月27日 開催地: 江蘇省南京

中国の伝統祭りの一つであり、提灯祭の中では一番有名だと言われている提灯祭である。毎年、陰暦のお正月から月宵節まで行われている。

金陵提灯祭はこれまでに20回以上開催されており、南京の人々は「金陵提灯祭を見ないと、新年に迎えられない」と言うほど昔から多くの人に愛されてきた。

毎年20種類以上300万個ぐらいのランタン(中国提灯)や、大型オブジェが幻想的に飾られ、街を彩る。会場では、ランタンの紙切り、ディアボロ、彫刻、影絵芝居等南京の伝統芸能も展示され、これもまた人々を魅了する。その他、龍踊り、中国獅子舞、雑技など中国色豊かな民俗文化と芸術も披露され、会場を大いに沸かせるので、子供から大人まで十分楽しめる祭りである。



ハルビンの氷と雪の祭り

開催日: 1月5日～2月28日 開催地: 黒竜省ハルビン

ハルビンの氷と雪の祭りは毎年1月から2月まで開催され、中国で初めての氷と雪をテーマとする地方の祭りである。毎年、この祭りの期間中大規模な寒中水泳競技が行われ、同時に観光客が氷燈籠のみならず、氷の彫刻の美しい景色を楽しみ、冰雪の夜のアートショーが楽しめる。





貴州苗族葦笙会

開催日: 2月9日～2月11日 開催地: 貴州省凱里

「2月葦笙祭り」とも呼ばれ、3日間に渡り行われる。苗民族が長山寨——古爬坂の近くで、葦笙を吹き鳴らすことにより、新しい一年の天候が順調で、農作物が豊作になるようにと待望する。翌日、屯山寨の葦笙平地に移動し、笙を演奏し、人々は、輪になり葦笙踊りを踊る。その他、闘鷺、競馬などが行われる。



昆明金殿の縁日

開催日: 2月18日 開催地: 雲南省昆明



伝統的な金殿の縁日は金殿公園で開催され、陰暦正月8日から10日まで、鳴鳳山に参拝者が沢山訪れる。昆明の軽食のシャオエクア（炊けたご飯を焼いて作った円形の薄い餅で雲南省の軽食）、罐罐米線（缶で盛るビーフンで昆明の軽食）、抓抓粉「ジャジャフン」（雲南省の軽食）、バラ米涼蝦（蝦のような形で、雲南省の軽食）などの軽食は至ること路にあり、麓から山頂まで至る所道沿いにあり、またいろいろな特産物もある。各地の廟の縁日とは大差なく、とてもにきやかである。その時に様々な特産品と特色の食品があり、花園の中で花々が美を競って咲き、公園で展開する各種の娯楽活動や大規模の大衆の文芸公演などもある。





蓬萊の漁灯元宵節祭り

開催日: 2月22日～2月23日 開催地: 山東省蓬萊



漁民は、蓬萊閣(蓬萊は神話で渤海「ぼっかい」の中にあるという仙人の住む山の名)の龍王宮殿(水に関する神、たとえば降雨などを支配する神)に灯を送ったり、龍王に貢物を供えたりする。それから航海の安全、大漁になることを祈る。その後、漁灯祭りの内容は切り替わり、船を祭り、漁灯を見送り、爆竹を鳴らすことになった。



上海城隍廟元宵節(縁日)

開催日: 2月23日～2月25日 開催地: 上海

毎年、陰暦の正月15日の元宵節前後、古城隍廟にある大小の店では、精巧な細工を施したいろいろなデザインの飾り提灯を掛ける。中にはガラスや牛角などの材料で作成した元宝、宝庫、順風船、蓮華、コウモリ、蝶、金ヒキガエル、などの飾り提灯がある。また綾絹や紙などの材料で作成した走馬灯、兎、蟹、鯉、貝殻、繡球、風車などの飾り提灯もある。

豫園内の四美軒茶屋、得月楼、扇店などの茶屋、お店は、飾り提灯の下に灯明をぶら下げる。

町の人々は“文灯”と“武灯”を行なう。“文灯”の演技チームは、江南糸竹が奏でる楽曲を先導にして、五彩の紙で傘のような模様の精巧な細工を施した、色とりどりのイルミネーションが後に続く。“武灯”の演技チームは、リズムが強烈な太鼓によってリードし、中華竜(舞竜灯)と獅子舞チームが逆巻きながら後に続き、非常に熱烈な雰囲気を作り出す。





婺源元宵節竜灯会

開催日: 2月24日 開催地: 江西省婺源

竹の骨に、色紙で竜頭竜尾の模様を貼り、竜の体は、各戸、括り付ける。花灯籠の内には蠟燭をつけて、2mごと明るくともす。一匹の長い龍の灯籠は延々と200m以上連なり、元宵節の夜、街の至る路地を通り抜けて、巨大な龍はあたかも泳いでいるように見える。



成都灯籠祭り

開催日: 2月24日～3月24日 開催地: 四川省成都

成都の灯籠祭りは、元宵節の習わしを基に発展した伝統的な行事である。開催は1ヶ月にも及び、その間、公園内では曲芸やアクロバット等が開催され、各地方の風味ある食べ物もあり、とても賑やかである。



麗江三朵祭

開催日: 2月25日～2月28日 開催地: 雲南省麗江

毎年、陰暦の2月8日に、納西族の「三朵神」を祭る行事である。一年間の繁栄と安全を願い、年占をする。また、納西族の民間打調活動、納西古楽ショーなども開催される。

三朵神は玉龍雪山の主神で、麗江一帯の人々は三朵節には三朵神を祀る玉龍雪山の麓の玉峰寺へお参り、玉龍雪山に対する素朴な崇拝から生まれた守護神に対する信仰として篤く信じられてきたのである。





東京禹王大廟会

開催日: 3月25日～4月25日 開催地: 河南省開封



開封市の東南にある禹王台公園で開催される。開封市の別名は東京で古くから栄え、中国六大古都(西安、洛上、北京、南京、開封、杭州)の一つになっている。また、これまで魏や後梁、后晋や後漢、後周や北宋、金の王朝が都を置いたことから七朝古都と呼ばれ、現在、中国の歴史名城24都市の一つにも指定されている。東京禹王大廟会では、様々な催し物が行われる。歴代の皇帝や皇后が文武百官や文人雅士、庶民達を引き連れ、禹王を拝む様子も再現される。また、七弦琴と古箏の演奏、草編(草で工芸品を作ること)、烙刻(焼き針で絵を作る)、飴細工(伝統的なあめ作り)、捏面人(しん粉細工)などの手工芸も演じられる。桜や牡丹の花見や園遊会、小型の電車などの子供が楽しめる催しも充実している。



洛陽ボタンの花見会

開催日: 4月1日～5月7日 開催地: 河南省洛陽

ボタンは洛陽市のシンボルの花なので毎年、ボタンの最盛期の4月15日から5月8日までの間、ボタンの花見会を開催している。この花にとりわけ恵まれた環境を利用することで人々の生活は豊かになっただけでなく、洛陽市と中国内外の経済技術、文化交流を深めることとなり、まさに一挙兩得となった。



福建湄洲媽祖節

開催日: 4月4日、10月4日 開催地: 福建省莆田

媽祖(海上・航海の女神)は民間伝承では、西暦紀元960年に福建省で生まれ、嚴通道士に導かれ仙女として力を授かったとされている。媽祖がいつも靈驗を現して船舶を守り、海難から救うと言いつづて伝えられてきた。旧暦の3月23日は媽祖の誕生日、9月9日は28歳で亡くなった日とされ、両日をちなんでお祭りが行われる。そのとき、数万人の台湾帰省客と現地の民衆はすべてここに集まり媽祖を祭る。媽祖節の期間は媽祖を祭り、媽祖の文化の研究会、工芸品の展示や販売をすることがある。特色的な民間の歌舞を見ることができ、福建料理を味わうこともできる。





とこうえん 都江堰の放水祭

開催日: 4月5日 開催地: 四川省成都

紀元前秦の時代に造られた都江堰水利施設が今も成都平野灌漑し、もたらす利益は計り知れないものである。そのため春の耕作の前の放水は、現地の住民にとり、神聖な祝日と見なされている。この祭りは、古代の儀式を復元し、昔の衣装を着ている水利の官吏が、祭文を朗読して、秦代に、工事を手がけたと伝えられている二人の王(李氷とその息子)の高徳を賛美する為に、放水の儀式を行う。



蘇州太湖梅花の花見会

開催日: 4月5日～4月14日 開催地: 江蘇省蘇州

蘇州の吴中は、昔から中国で梅を見る有名な景勝地である。梅の文化が深く、鄧尉の「香雪海」、西山の「鶏籠梅雪」で有名です。「林屋梅海」は、全国で最大の梅と、梅の文化活動をする根拠地となっている。花見会は、梅を主題にして、さまざまな民俗的な文化活動を開催して、多彩で、雰囲気めめでたくて、非常に盛り上がる。また太湖の山水と色が雪のように数が海のようないい匂いをする梅を觀賞することもできる。(蘇州市は江蘇省に属して、吴中、鄧尉、西山は地名で、蘇州市に位置する。「香雪海」、「鶏籠梅雪」、「林屋梅海」は観光地の名前である)





紹興蘭亭筆会書法祭

開催日: 4月12日～5月10日 開催地: 浙江省紹興



書道家の王羲之を、記念するために開催される。書法展は、1985年から行われ今に至っている。書法展の行事は多彩で、晋聖、みそぎ、曲水の宴、書道の展覧会などを開催する。ほかにも芸術作品の交流とオークション、国際書道の旅行シンポジウムなどの交流をする。蘭は、紹興市の市花なので、毎年4、5月になると蘭亭で、蘭祭りを行う。



麗江東巴会

開催日: 4月14日 開催地: 雲南省麗江

ナシ族の人々がたくさん住む東巴(東巴、意識は智者で、ナシ族の最高の知識人である。彼らの多数が歌、舞、歴史、絵、医学など才能がある。)は中部の東巴聖地—麗江市玉水寨に集まって、ここに年に1回の東巴会を開催する。この日、毎年旧暦の3月3日に東巴たちが早々と玉水寨の東巴什羅廟にやってくる。香炉を燃やし、大きな線香を立て、神と祖先への祭祀儀式を行い、東巴元祖の東巴什羅を祭り、それにお経をあげて、法事を営む。





維坊市国際風祭

開催日: 4月20日～4月25日 開催地: 山東省維坊



毎年4月10日～25日まで、風の都である濰坊市で開催される。1984年に始まったこの国際風祭りが発端となり、年々、1988年「世界風の都」とされ、1989年には国際風連合会成立し、本部を濰坊市に置く事が決まった。これ以来、濰坊市は世界の風文化交流の中心になっている。1999年からは、経済貿易商談会や国際野菜科技博覧会、濰坊市工業製品展示即売会、昌樂珠寶展示即売発注会、臨朐奇石展示即売会などの経済や貿易に関する催し物も同時に開催されるようになり、滞在中の楽しみが増加している。

国際風祭は、国内外から多くの風専門家や愛好者が競技のために訪れ、その素晴らしさを観賞するために多くの観光客が訪れるようになった。豊富で多彩である伝統な祭りや民族装飾や灯籠なども楽しめる。



シーサンバナナ水かけ祭り

開催日: 5月22日～5月24日 開催地: 雲南省シーサンバナナ

タイ族の暦の1年の始まりは、7月1日である。西暦になおすと4月の中旬になる。タイ族の水かけ祭りは、タイ族の新年を迎える伝統的なお祭りである。人々はお互いに水をかけ、災いを取り除いたり、祝福し合ったりすることができると思っている。お祭りの際、沙積み、綉球投げ、花火、竜船のレースなども行われる。





蘇州軋神仙

開催日: 5月23日 開催地: 江蘇省蘇州



蘇州の伝統的な祝日である。旧暦の4月14日は、呂洞賓(中国神話の八仙の一人)の誕生日で、「神仙の誕生日」という俗称がある。呂洞賓は、魔を払い、病を治し、この日にお参りすると、病が治癒すると言われている。この日は、閶門の仙人廟に向かう参拝者が非常に多く、この日、呂洞賓は人ごみに紛れ込むという伝説があり、運良く神仙様にぶつかれば、その人は福を授かると伝えられている。病に苦しんでいる人や仙人の恩恵を得ようとする人々が、神仙様に触れて、福を授かろうとして「軋神仙」という俗称がある。この祭りは現在、廟、寺の縁日になって、民俗の文化祭をテーマに、仙人廟の縁日、ファッション的な文化の展示、民俗文芸の出演などを催し、何でもそろっている。



期間中は、出店を募集して、いろいろな軽食、工芸品、花鳥や虫や魚などを展示した臨時の露店が立ち並び、すこぶる蘇州の特色ある文化を持つ観光ブランドとなっている。



大理三月街

開催日: 5月26日～6月1日 開催地: 雲南省大理

毎年、旧暦3月10日～21日まで大理の古城の西で行われる三月街は、大理のペー族(白族)が繰り広げる、一千年の歴史を誇る伝統的で最大の祝日である。周辺の少数民族も集まり、大規模な物資の交流や少数民族のパレードと遊技の披露や、競馬などのスポーツ大会を開催し、この期間を楽しく祝う。毎日の参加者は数十万人にも達する。この期間中、若者が結婚を前提とするデートが盛んに行われる。古代には、観音市や観音会と呼ばれ、3日～5日のお祭りでしたが、時代とともに期間が延長され、現在は10日間も開催されるようになった。大理政府により「大理ペー族自治州三月街民族祭」と称されている。





シャングリラ競馬祭り

開催日: 6月12日～6月15日 開催地: 雲南省シャングリラ



香格里拉競馬祭りは、悠久なる歴史を持ち、シャングリラ県各少数民族の、最も盛大で重要な伝統的祝日であり、チベット人の春の盛大な集会でもある。現在の競馬は、民族運動競技会と民間文芸活動の交流大会にまで発展した。旧暦——端午の節句の前後に、3日間に渡り、舞鳳山競馬場で行われる。競馬祭りの期間は、伝統的な馬術競技、ヤク競走、牛が棒を引っ張るなど、普段あまり目にしない、珍しい試合を行う。競馬チームの選手たちは雲南省各地から、大勢やって来る。



蘭州水車祭り

開催日: 7月1日～7月31日 開催地: 甘粛省蘭州市

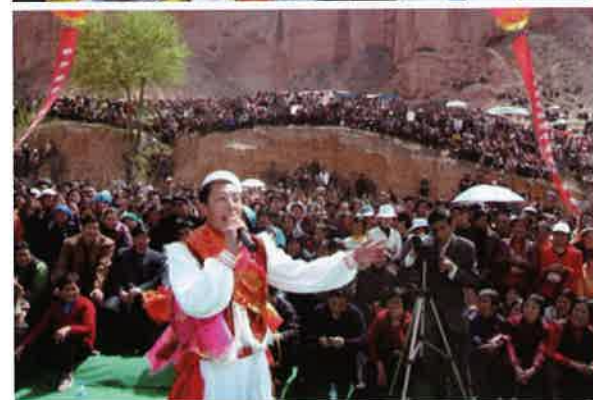
水車祭りは盛大な開幕式で始まる。水車祭りの大きな彩色旗、色どりどりの風船は風にたなびき揺れ動いている。太鼓を叩く音が園内に響き、大きい水車がゆっくりと回転していく。高らかに流れる甘粛の“花”（その地域にある特別な民族の歌）は河岸に響き渡る。そして、広々とした黄河にヒツジの皮で作ったいかだが、何艘も並んで流れに沿って川を下っていく。それは西部の風情の絵巻には欠かせない重要なもののひとつになっている。





寧夏花児会

開催日: 7月8日～8月6日 開催地: 寧夏・銀川



「花児」とは甘肅、青海、寧夏の3省の広大な地区で広く伝わる民謡である。「花児会」は毎年の4、5、6月に行われる歌垣である。「花児」は「少年」とも称する。男性の青年が歌ったのは「少年」と呼び、若い女性が歌ったのは「花児」と称する。伝説によると、「花児」は少なくとも4百年余りの歴史がある。その内容が豊富であり、形式が自由で活発であり、言語が生き生きとし、メロディーが高揚して優美であり、濃厚な生活の息吹と郷土の特色を持ち、現地の回族、漢民族、チベット族、東郷族と土族などの民族に好まれている。



内蒙古草原ナダム祭り

開催日: 7月～8月 開催地: 内蒙古各地



内蒙古自治区各地の夏には、モンゴル族の伝統的な行事、「ナダム」が開催される。

ナダムは「娯楽」を意味するモンゴル語で、一般的には7、8月に行われる。もともと、ナダムは屈強なモンゴル人たちが武力を競う場だった。競技は、相撲、競馬、弓(アーチェリー)で、「男の3種の娯楽」と呼ばれた。





青海民族競馬大会

開催日: 7月25日～8月1日 開催地: 青海省玉樹

毎年7月25日～8月1日、玉樹チベット族自治州の結古草原で開催される。この時期の結古草原は、美しく雄大な景色を見せ、山紫水明、百花が満開で、良い香の草が人々をうっとりさせ最高級の季節である。

平坦な地面には、芝生が生い茂り、ここで競馬大会が行われるが、様々な交流会や歌や踊りも披露される。人々は輪になり、歌い踊りながらこの競馬大会を楽しむ。チベット族の人々は、艶やかな民族の服装を着て、自分達のテントを張り、競馬やヤクの競争、チベット式相撲や馬術や弓術、この他にも民族の歌や踊り、チベット族の服飾の展示など、民族の様々な特色を持ってもたらししてくれる。



西昌松明祭り

開催日: 7月31日～8月2日 開催地: 四川省西昌



西昌市は、彝族の人たちが全国で最も多く住んでいる。彝族は独自の民族の習慣があり、特に彝族の民族衣装は鮮明である。“松明祭り”は彝族の最も盛大なお祭りである。毎年、彝暦“虎月”、陰暦6月24日から26日に行なわれる。お祭りの初日、村々の人々が牛や羊をさばき、“砣砣肉”を煮て食べ、心ゆくまで酒を飲む。2、3日目、お祭りはクライマックスに達し、老若男女は美しく着飾って、松明祭りの“都格德”（松明祭りの集まる所）に集まる。男子は闘牛、競馬、レスリングなどの伝統的な競技活動をし、一方、女子は色が揃っている油紙傘（ある桐油を引いた防水布で作った傘）をさし、手をつないで丸を囲み、“朵洛荷”を歌い、“達体”を踊り、口弦琴を弾き、“美人コンテスト”に参加する。夜になると、人々は集まって松明を高く差し上げ、かがり火を囲み、夜を徹して踊り明かす。そのため“東方カーニバル”と呼ばれている。



凱里竜船祭り

開催日: 8月2日 開催地: 貴州省東南部凱里地区



毎年の陰暦5月24日、貴州省東南部の凱里市や台江・黄平・施秉・鎮遠・三穗・劍河などの各県から、3～4万に近い着飾った苗族の人々が清水江のほとり、台江県施洞山口に集まり、4日間にわたる盛大な丸木の竜船祭りが行なわれる。

このお祭りが近づくと、各村の苗族の人々は、田植えをした後の水稻の農閑期を利用して、はるばる来る親戚と友達を接待するために、ちまきや餅を作りお酒とたくさんの料理を用意する。



トルファン葡萄祭

開催日: 8月18日～8月28日 開催地: 新疆・トルファン

毎年8月、1年に1度だけブドウの豊作を祝う「葡萄祭」が観光文化広場で開催される。世界的に有名なトルファンの葡萄を目当てに国内外から観光客が訪れる。熱情的で客をもてなすことが好きなトルファンの人々は、民族的で大型の歌や踊りを観光客に披露してくれる。





ラサ雪頓祭り

開催日: 8月29日～9月4日 開催地: チベット・ラサ



“雪”はチベット語のヨーグルトの意味で、“頓”は供給の意味し、すなわちヨーグルトを食べる祝日のことである。現在、雪頓祭りの活動内容は、チベット芝居コンクールを主として“チベット芝居祭り”と呼ばれている。チベットの暦の、6月末～7月初めに開催される。



楚雄彝^イ族松明祭り

開催日: 8月14日～8月16日 開催地: 雲南省楚雄

楚雄は雲南省楚雄彝族自治州の州都である。お松明祭りになると、彝族の村の人々がごちそうを用意し、老若男女は美しく着飾り、広場に集まります。白昼に闘牛、レスリングなどの催しがあり。夜は、たくさんの松明を火の塔のように積み上げて燃やす。人々がかがり火を囲んで踊ったり、歌合戦をしたりして、隔てなく楽しむ姿は本当に沸き立つ場面である。





蘇州虎丘廟会

開催日: 9月1日～10月1日 開催地: 江蘇省蘇州



虎丘は蘇州の城外から西北に位置し標高30mあまりの小高い丘のことである。歴史にまつわる見所が多く、丘の上には蘇州のシンボルで961年に創建された雲岩寺塔がそびえ立っている。築1000年を越えているこの塔は、八角形の七階建てで高さは48m。中国で最も古い塔の一つである。重点保護文物に指定されているが、度重なる火災で約15度も傾き、中国のピサの斜塔とも言われている。

虎丘廟会は、この虎丘で行われ観光客に非常に人気があるお祭りである。1ヶ月にわたり開催され、操り人形や手品、空中ブランコで楽しませてくれ、獅子舞、功夫、雑技や鼓舞などの各種雑技と民俗芸能なども披露される。また江南水郷の特産品を買い物が出来る店も並んでいる。

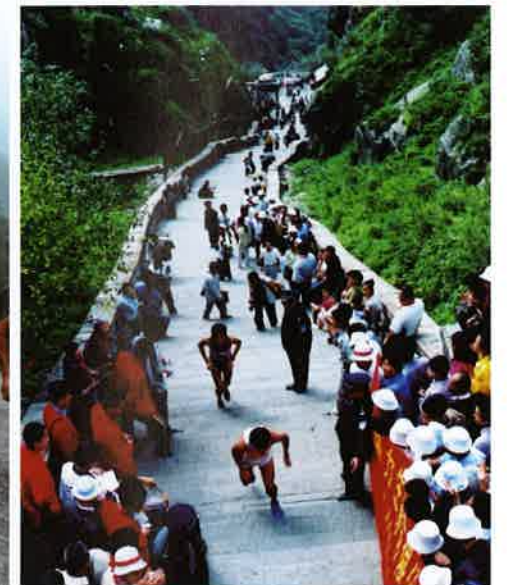


泰山国際登山祭り

開催日: 9月10日～9月20日 開催地: 山東省泰山



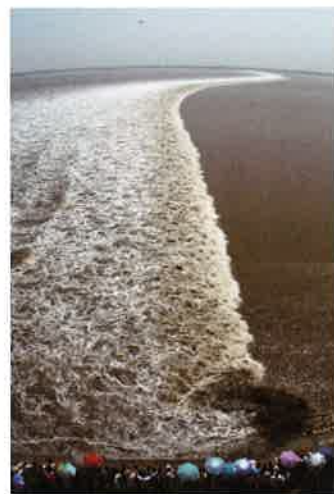
泰山の登山祭は1987年から毎年行なわれ、地元の観光と経済の発展に寄与している。登山競技大会や泰山を巡る万人マラソン、泰山田舎金秋摘み取り活動や寧陽コオロギ祭、泰山金秋撮影大会など、多彩な催し物が開催される。登山競技大会には、世界の20余りの国と地域から約1400人が集まる。近年は森林を走るマウンテンバイク競技、クロスカントリーなども行われる。





銭塘江観潮祭り

開催日: 9月15日～9月20日 開催地: 浙江省杭州、海寧



銭塘江の潮逆流は、またの名を『海寧潮』或いは『浙江潮』という。毎年、中秋節の頃は増水期にあたり、昔から独特ですばらしい景観と言われ潮逆流を見にくる人は後を絶たない。杭州から北東に45kmの海寧塩官鎮にあり、毎年陰暦の8月18日には最高の潮逆流を見ることができる。

銭塘江のラッパのような河口を眺めると、渦潮が凄まじい大波を立てながら逆上し、澉浦の近くの河床の砂にぶつかり3～5m程の高さの波が9～10mにまで達する。まさに“天まで届く波は空を突き抜け、大きな勢力で山をも破壊する”という勢いである。はじめて海寧で潮逆流を楽しむようになったのは古く唐代・宋代の頃に遡ると言われ、今では潮逆流観光ツアーができるほど人気となっている。1992年から始まった逆流観潮祭りではこれまでに国内外あわせて800万人の観光客が訪れる。



上海観光祭

開催日: 9月～10月 開催地: 上海



上海観光祭は、毎年9月の第二の土曜日より一ヶ月間、上海で開催されている観光祭。2012年の開催で23回目を迎える。「都市の記憶」をコンセプトに、それぞれの新たな都市の記憶に対する情熱を来場者、そして参加者が共有することにより、新たな上海の魅力の発見、発信の端緒と目的で開催するようになった。

上海、めまぐるしい発展の中にあり、「東洋と西洋」「伝統と革新」が溶け合う、その街は躍動感にあふれ、現在の中国パワーをダイレクトに感じられるスポットとなっている。また、上海万博の開催により交通網も整備され、ますます国際都市としての存在感を色濃くともっている。年に一度の上海観光祭の開幕式はパレードカーとパフォーマンスグループが淮海路に集まり、世界各地のエキゾチックな文化や民族の雰囲気をも市民や観光客に披露する。





瀏陽の花火大会

開催地: 湖南省瀏陽市

瀏陽は花火の町である。瀏陽の花火は世界でとても有名で世界100カ国に輸出されている。二年に一回、十月に瀏陽川で開催される花火大会には観光客が多数訪れ、中には外国人の姿も見られる。いろいろな形の打上花火が次々に打ち上げられ、パッと散っていくその様はとても美しく、まるで夢の中にいるようである。

2009年、中国国旗の形をした仕掛け花火が19日夜、「花火の故郷」といわれる瀏陽市で披露された。「仕掛け花火の巨大中国国旗」は縦28メートル、横42メートル。国歌が響く中で火がつけられ、国歌が鳴り終わる直後に燃え尽きた。「世界最大の仕掛け花火の国旗」はギネス記録を樹立している。



甘肅シルクロード祭

開催日: 10月14日～10月24日 開催地: 甘肅省蘭州市



1992年から毎年1回行われる。この期間だけの敦煌へのツアーがある。蘭州から出発し、祁連山の麓を西へ進み、武威、張掖、酒泉を通り、嘉峪関を経て敦煌へたどり着く。このルートはシルクロードのほんの一部であるが、行く先々どこでも壮観な光景を目にすることができる。またラクダに乗り、砂丘を登ることは国内外からの観光客に人気がある。





開封菊祭り

開催日: 10月18日～11月18日 開催地: 河南省開封



毎年、秋になると、開封の大通りと路地では色とりどりの美しい菊の花が至る所に咲く。赤、黄色、紫、白などの様々な色で、開封は、一面の花畑と化する。花祭りの主な鑑賞は、竜亭、鉄塔、大相国寺、包公祠など数ヶ所あり、展示した菊の花の品種は、100種余りに達する。花祭りの期間、各種の経済貿易活動が展開される。

菊の栽培は、北宋時代から大変盛んで、菊の花で飾り付けた灯籠を掛け、菊花祭りを開き、菊酒を飲むことは千年以上の歴史がある。



九寨溝羌年会

開催日: 11月3日～11月8日 開催地: 四川省九寨溝

羌年会(また羌歴年と呼ばれる)は秋の収穫後、豊作になったことを、神様に感謝するために行う農家の行事である。チャン族(チベット系の少数民族・四川省に居住・農業と牧畜に従事するが、伝統的に堤防工事と井戸掘りの技術にすぐれている)の伝統によると、人々はお礼参りをするだけでなく、天の神様や山の神様と土地の神様を祭らなければならない。「山寨」の人々は集り、団欒しながらご馳走を食べ、酒を飲み、心行くまで楽しんで帰る。行事の期間中は、親戚や友達とお互いに祝い相手を誘って馳走する。





広州花市

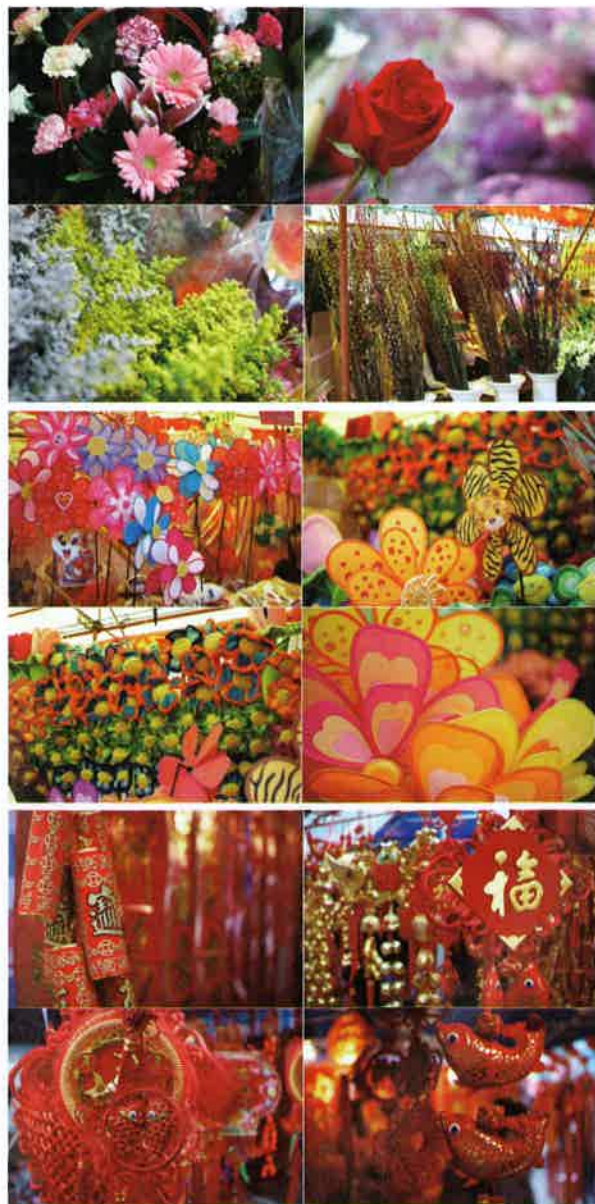
開催日: 12月28日～12月30日 開催地: 広東省広州

中国では春節の前にお正月用の花や植木を買う風習がある。新しい年を「花開富貴」のような縁起のいい格言に沿って、花を飾って新しい年を迎えるという習慣である。

広州では花市が市内全域で行われる。花市の期間は一般の人達も自由に花の売買ができ、そのやりとり自体が広州の風物詩となっている。花市の歴史は200年近くあり、現在広州の花市といえば中国一の規模を誇り、市内各所で行われる花市は数十キロにも渡り、そのために交通規制が行われる。

どの花市でも人気なのは「金桔」である。桔は広東語で「ガップ」と発音し、「吉」と同音語であることから、「金」と「吉」で縁起がいいとされている。また、桃の花の枝も多くの人買い求める。桃の花がきれいに咲いた枝の周りを3回まわると「桃花運」(恋愛運)がよくなる、と信じられているからである。

花市は昼間もいいが、夜は趣向を凝らした飾り灯がつき、遅くなるほど人出も増して賑やかになる。大晦日の深夜には各店とも売りつくしのために大幅に値下げするのでそれを狙って出てくる人も多い。花の付きの美しい物が欲しければやはり早め買い求めたほうがいいだろう。



蘇州寒山寺除夜の鐘

開催日: 12月31日 開催地: 江蘇省蘇州

寒山寺は、江蘇省蘇州市楓橋鎮にある臨済宗の仏教寺院で、蘇州市から西に約5kmの所にある。南北朝の梁(502～519年)に創建された禅寺で、当初は妙利普明塔院と呼ばれ、唐代に寒山寺に改名された。

唐代の詩人張継が詠んだ漢詩「楓橋夜泊」によって、寒山寺の名を天下に知らしめたのである。

原詩: 月落烏啼霜滿天、江楓漁火對愁眠。姑蘇城外寒山寺、夜半鐘聲到客船。

月落ち 烏啼いて 霜天に満つ／江楓 漁火 愁眠に對す／姑蘇 城外の 寒山寺／
夜半の鐘聲 客船に到る

寒山寺では、毎年大晦日には除夜の鐘が鳴らされることになっており、その鐘の音を聴くと10歳若返ると言われており、こんにちでは誰が撞き手の一番手となるかをせりにかける行事が恒例となっている。また、除夜の鐘を聞きながら新年を迎える行事は中国ばかりでなく、日本、韓国をはじめとする各国の観光客大勢参加するようになった。





ご覧いただきありがとうございます！



中国国家観光局大阪駐在事務所

TEL:06-6635-3280 FAX:06-6635-3281

〒556-0017 大阪市浪速区湊町1-4-1 OCATビル4F

<http://www.cnta-osaka.jp>